

平成17年6月2日
 総務省総合通信基盤局
 電気通信事業部番号企画室

「第4章 固定電話番号のひっ迫対策」報告書(案)への修正意見について

意見	提出者	修正案
<p>2ページ 4-1 「OAB-J番号を用いたIP電話の提供開始」は「想定していなかった環境の変化」と迄は言いがたいのではないのでしょうか。H14年度番研報告書本分にも触れているところです。「逼迫対策の検討に対して、定量的に考慮できなかった」レベルでは。 「想定していなかった環境の変化」を「逼迫対策の検討に対して、定量的に考慮できなかった部分もあり、また」に変更するのはいかがでしょうか。</p>	<p>NEC</p>	<p>「OAB～J番号を用いたIP電話の提供開始」を「OAB～J番号を用いたIP電話の<u>拡大</u>」に修正。</p>
<p>4ページ 4-2 (2)ア 唐突に「番号ポータビリティの二重番号」が登場しますが、これが4章のキーワードと考えられます。この意味が解らないと4章全体が理解できません。 4-1と4-2の間に「背景」として、OAB-J番号を用いたIP電話 や ドライカップを用いる電話の番号需要に及ぼす影響を定性的に述べると解りやすくなると思います。 例えば、「二重番号」の文言の後に、(※注)を入れ、OAB-J番号を用いたIP電話やドライカップを用いた電話に、事業者間のルーティングのために二重番号が必要なことを事業者間の相関図等を用いて示すのはいかがでしょうか。</p>	<p>NEC</p>	<p>4-2に次の一文を加える。 「<u>また、アンケート調査を行うにあたっては、番号ポータビリティによる二重番号の使用が需要増加の大きな要因となると考えられることから、二重番号を使用する場合と使用しない場合に分けて調査を行った。</u>」</p>